

SPARX

2010年3月期 第1四半期決算 説明会資料

2009年8月24日



スパークス・グループ株式会社

2010年3月期 第1四半期決算の業績 及び 今後の施策について



2010年3月期 第1四半期決算サマリー (概要)

営業収益・AUMの回復は鈍いが、大幅なコスト削減効果等により、
営業利益で黒字を計上

- ▶ 営業収益 : 22.4億円(前年同期比▲39.9%)
- ▶ 営業費用/一般管理費 : 22.3億円(同▲49.1%)
- ▶ 営業利益 : 0.08億円(前年同期: ▲6.6億円)
- ▶ 純損失 : ▲6.4億円(同: ▲8.0億円)

- ▶ 自己資本: 161.0億円(前年度末残高: 158.2億円)



営業収益の回復に注力し、黒字体質を早期に実現する。

2010年3月期 第1四半期決算サマリー (損益計算書)

- ▶ 営業収益 (22.4億円、前年同期比▲39.9%)
 - AUM平残の減少 (6,860億円、同▲47.6%)
 - ⇒ 残高報酬17.1億円 (同▲46.6%)
 - 成功報酬は、0.6億円までに大きく減少 (同▲94.5%)。
 - 自己資金投資案件に係る営業投資有価証券売買損益を4.2億円計上。
- ▶ 営業費用及び一般管理費 (22.3億円、同▲49.1%)
 - 業績賞与の減少 (同▲7.3億円) などの効果大きい。
 - 構造改革に伴う固定的経費の削減効果が、今期から発生。

⇒ 営業利益 0.08億円

- ▶ 営業外費用で為替差損 (3.2億円)、特別損失で経営構造改革関連損失 (0.6億円) を計上。

⇒ 純損失 ▲6.4億円



2010年3月期 第1四半期 損益計算書等の概要

	2009年3月期		2010年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	13,102	9,914	6,860	-47.6%
営業収益 (百万円)	3,735	7,335	2,246	-39.9%
営業費用・一般管理費 (百万円)	4,396	15,380	2,238	-49.1%
営業利益 (百万円)	-660	-8,045	8	-
経常損失 (百万円)	-273	-8,259	-194	-
当期損失 (百万円)	-809	-23,317	-641	-
従業員数(期末) (人)	293	270	239	-18.4%
TOPIX (期末)	1320.10	773.66	929.76	-29.6%

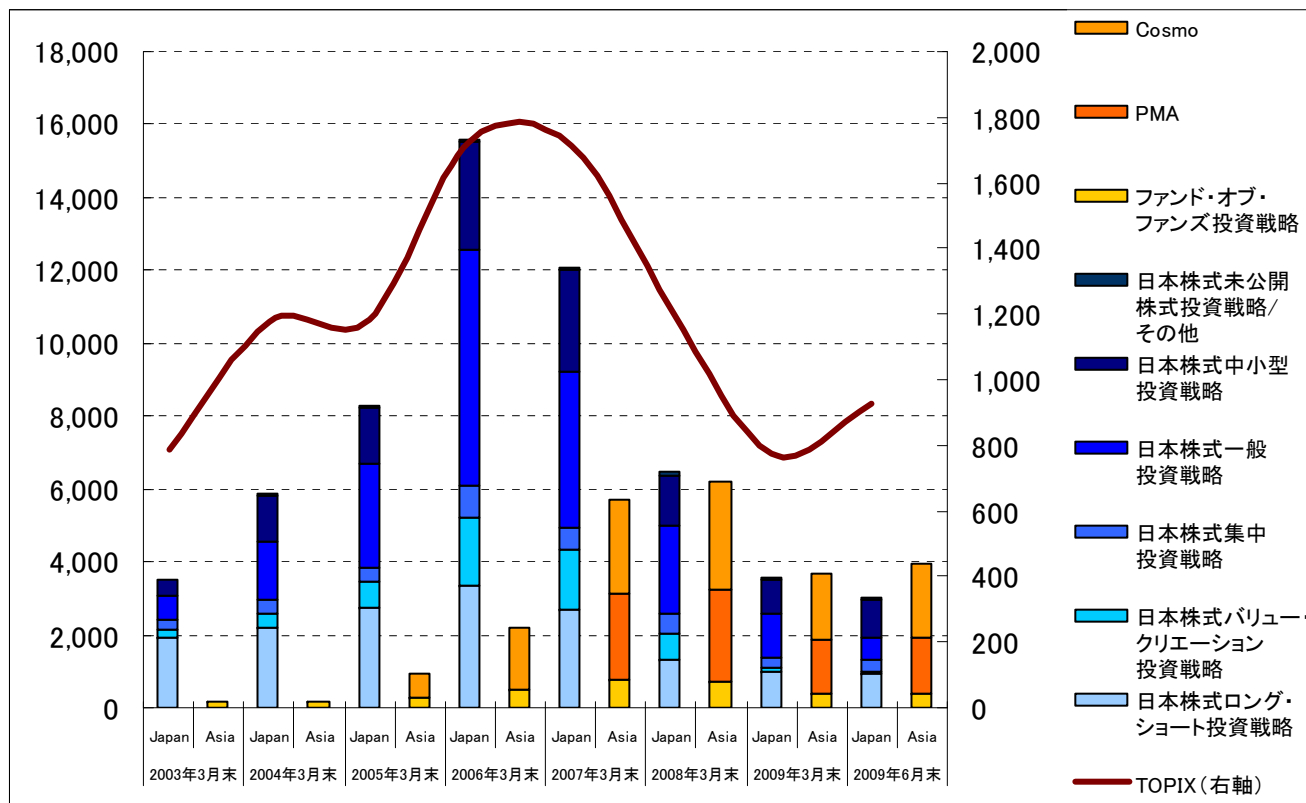


- (注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。
(注2) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。なお、経営改革等に伴う退職者で在籍中の人員(21名、2009年6月末時点)を控除後の従業員数は、218名となる。
(注3) 上記表中運用資産残高は、COSMO社およびPMA社の運用資産残高を含む。なお、2009年6月末の運用資産残高については、速報値をベースに算定している。

地域別運用資産残高の推移

(単位:億円)

(TOPIX指数)



(注1) 2005年2月: COSMO社買収
 (注2) 2006年6月: PMA社買収
 (注3) 2007年1月: ファンド・オブ・ファンズ投資戦略を香港へ移管
 (注4) 2009年6月末の運用資産残高は速報値

運用資産残高の増減(2009年3月末～2009年6月末)

(単位:億円)

事業主体別	2009年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2009年6月末
スパークス・アセット社	3,940	64	-1,032	-968	436	3,409
COSMO社	1,804	55	-123	-68	310	2,046
PMA社	1,489	116	-120	-3	44	1,529
当社グループ全体	7,234	236	-1,276	-1,040	791	6,985



(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 「運用・為替差損益等」には、2009年3月末と2009年6月末の換算レートによる差額分が含まれている。

(注3) 2009年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

営業収益内訳および成功報酬付AUM付帯比率

営業収益内訳	2009年3月期		2010年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
残高報酬 (百万円)	3,205	9,745	1,710	-46.6%
料率(手数料控除後) (%)	0.84%	0.83%	0.85%	+0.01
成功報酬 (百万円)	1,171	2,322	64	-94.5%
営業投資有価証券売買損益 (百万円)	-	-9	427	-
営業投資有価証券評価損益 (百万円)	-647	-4,898	-	-
その他営業収益 (百万円)	5	175	43	641.0%
営業収益 合計 (百万円)	3,735	7,335	2,246	-39.9%

成功報酬付AUM比率	2009年3月期		2010年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
スパークス・アセット社	残高(億円) 3,339	1,981	1,593	-52.3%
	比率(%) 47.3%	50.2%	46.7%	-0.6
COSMO社	残高(億円) 2,541	1,631	1,842	-27.5%
	比率(%) 86.5%	90.4%	90.0%	+3.5
PMA社	残高(億円) 2,009	1,232	1,178	-41.4%
	比率(%) 76.2%	82.8%	77.1%	0.9
合計	残高(億円) 7,891	4,845	4,614	-41.5%
	比率(%) 62.5%	66.9%	66.1%	3.6



(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」「対前年度比」については、四捨五入により小数点第1位まで表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後)(%)」の「前年同期比」と「成功報酬・対AUM付帯比率(%)」の「対前年度比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 残高報酬料率(ネット・ベース) = (残高報酬 - 残高報酬に係る支払手数料) ÷ 期中平均運用資産残高

(注3) 2009年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2009年3月期		2010年3月期	
		第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
支払手数料	営業費用	467	1,484	258	-44.6%
委託計算費	営業費用	43	205	49	13.9%
その他	営業費用	101	339	79	-21.5%
人件費	一般管理費	1,911	6,290	734	-61.6%
旅費交通費	一般管理費	193	529	62	-67.7%
不動産賃借料	一般管理費	236	913	217	-8.0%
事務委託費	一般管理費	296	1,070	204	-31.2%
減価償却費	一般管理費	76	299	55	-28.0%
のれん償却費	一般管理費	693	3,065	342	-50.6%
その他	一般管理費	376	1,181	233	-37.8%
営業費用・一般管理費 合計		4,396	15,380	2,238	-49.1%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等に関する費用も含んでいる。

2010年3月期 第1四半期決算サマリー (貸借対照表)

▶資産の部 (360.3億円、前期末:376.3億円)

- 現預金残高は高水準を維持(125.9億円、前期末比▲17.1億円)。
- 営業投資有価証券(流動資産)は合計0.3億円まで減少。

▶負債の部(175.8億円、同:196.2億円)

- 有利子負債(銀行借入・社債)を前期末残高150億円から135億円にまで減少。

▶純資産の部(184.4億円、同:180.0億円)

- その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定は、大幅に改善された。



厳格な資産査定及び負債／流動性管理によりBSの健全性は十分に維持

2010年3月期 第1四半期末 貸借対照表概要

(単位:百万円)

	2009年3月期 期末	2010年3月期 第1四半期末	前期末比
流動資産	21,088	19,189	-9.0%
うち、現預金	14,307	12,597	-12.0%
うち、営業投資有価証券	1,945	30	-98.5%
固定資産	16,541	16,841	1.8%
うち、のれん	7,573	7,259	-4.1%
うち、投資有価証券	7,600	8,267	8.8%
(資産の部 合計)	37,630	36,031	-4.2%
短期借入金	-	-	-
一年以内返済長期借入金	2,000	500	-75.0%
社債	5,000	5,000	0.0%
長期借入金	8,000	8,000	0.0%
(負債の部 合計)	19,624	17,587	-10.4%
資本金・資本剰余金	26,696	26,696	0.0%
利益剰余金	-4,136	-4,778	-
自己株式	-4,438	-4,438	-
少数株主持分	2,085	2,240	7.4%
(純資産の部 合計)	18,005	18,443	2.4%



(注) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、四捨五入により小数点第1位まで表示している。

当社の株価の推移(2008年8月－2009年8月)



基礎収益力

残高報酬(手数料控除後) VS 経常的(固定的)経費

		2009年3月期	2010年3月期
		通期	第1四半期 (12ヶ月換算)
AUM平残	(億円)	9,914	6,860
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.83	0.85
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	8,228	5,826
経常的経費	(百万円)	8,859	6,427
基礎収益	(百万円)	▲630	▲601
従業員数(期末)	(人)	270	239



- (注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。
 (注2) 「経常的経費」とは①支払手数料全額、②実績賞与(賞与引当金繰入含む)、③のれん償却費の合計を営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指す。
 (注3) 「従業員数(期末)」は、役員を含まない従業員数。なお、経営改革等に伴う退職者で在籍中の人員(21名、2009年6月末時点)を控除後の従業員数は、218名となる。

収益力回復に向けての施策

「基礎収益力」を早期に回復するために

① コストをコントロールし、

② 既存戦略の立て直し・成長戦略の展開により、収益を伸ばす。

▶ 第1次・第2次経営改革で目指した、年間ベースコスト65億円は達成見込。

▶ 徹底したコスト効率・業務効率の追求を推進。

- 米国Hennessy社と提携し、米国における投資信託の管理・販売を委託。
 - ▶ 米国投信ビジネスのコスト構造は大幅に改善する。
- 今後は、ファンド・オブ・ファンズ・ビジネスの香港子会社についても、組織・体制を大幅にスリム化する予定。
- PMA社も人員スリム化、経常的経費の大幅削減に着手済。



収益力回復に向けての施策

「基礎収益力」を早期に回復するために

- ① コストをコントロールし、
- ② 既存戦略の立て直し・成長戦略の展開により、収益を伸ばす。

- ▶ 伝統的運用とAlternative運用を複合したHybrid運用によりSPARXブランドを再強化
 - 日本株・中小型： パフォーマンスは改善。6・7月は顧客資金が流入超(ネットベース)へ
 - 日本株・ロング・ショート： 直近ではパフォーマンスが改善し、競争力が回復。
 - 日本株・ロング・ショート・プラス(6月)、グローバル・マーケット投資戦略(8月)立ち上げ
- ▶ 日本で唯一の、「アジアの投資インテリジェンス」を提供可能な会社として差別化
 - PMA社はAUMのリカバリーについて目途が立ってきている。
 - コスモ社のロッテとの提携は順調に進捗。コスモ社は投信ビジネスへ着手へ
- ▶ ”Green Energy Society”の時代到来を見据えた投資戦略の提供へ



参考資料



運用資産残高の増減(2009年3月末～2009年6月末)

(単位: 億円)

スパークス・アセット社	2009年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2009年6月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	982	21	-35	-14	-9	958
日本株式バリュー・クリエーション投資戦略	133	0	-126	-126	11	17
日本株式集中投資戦略	277	0	-2	-2	59	333
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	370	0	0	0	4	374
日本株式一般投資戦略	1,211	4	-767	-763	152	601
日本株式中小型投資戦略	906	38	-99	-60	220	1,066
日本株式未公開株式投資戦略	31	0	0	0	0	30
その他	27	0	0	0	-1	26
合計	3,940	64	-1,032	-968	436	3,409

COSMO社	2009年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2009年6月末
韓国株式インデックス運用戦略	1,130	5	-64	-59	227	1,298
韓国株式一般投資戦略	299	50	-47	2	65	367
韓国株式ロング・ショート投資戦略	231	0	-10	-10	-10	210
韓国株式集中投資戦略	74	0	0	0	16	91
その他	67	0	0	0	12	79
合計	1,804	55	-123	-68	310	2,046

PMA社	2009年3月末	流入	流出	純流出入	運用・為替 差損益等	2009年6月末
アジア株式投資戦略	533	0	-58	-58	62	538
アジア・欧州債券投資戦略	767	0	-35	-35	-4	728
アジア・マクロ投資戦略	187	25	-26	-1	-13	172
その他	-	91	-	91	0	90
合計	1,489	116	-120	-3	44	1,529



(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 「運用・為替差損益等」には、2009年3月末と2009年6月末の換算レートによる差額分が含まれている。

(注3) 2009年6月末の数字は、速報値に基づいて算定している。

スパークス・アセット社 主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2009年6月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 中小型	日本株式 ロング・ショート (ドル建、Lev.2)	日本株式 ロング・ショート (円建、Lev.1)	日本株式 集中投資
コンポジット	7.23%	2.24%	13.90%	2.64%	4.77%
参考インデックス値	-2.46%	-0.03%	-1.39%	-4.13%	-3.00%
超過リターン	9.69%	2.27%	15.29%	6.77%	7.77%

参考インデックス	TOPIX配当込	ラッセル野村日本株ス タイルインデックス・ミッド・ アンド・スモール	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込
計測開始日	97年5月	2000年1月	97年8月	2000年6月	99年7月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	24.08%	17.33%	11.35%	6.48%	21.24%



- (注1) 上記表中の数字は、スパークス・アセット社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。
- (注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式中小型」「ロング・ショート(ドル建、Lev2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev1)」は基準価格法・運用手数料控除後、「VCI(ドル建)」は内部収益率・運用手数料控除前。また、上記数字は四捨五入により小数点第1位まで表示している。
- (注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。

(出所) スパークス・グループ(株) (2009年6月末現在)

スパークス・アセット社 コンポジット算出に関する追記

1. 各コンポジットはSPARXグループのグループ会社(ただし、COSMO社、PMA社を除く)が運用するポートフォリオを対象としている。
2. 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式中小型	日本の中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
日本株式ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを追求するロング・ショート投資戦略
日本株式集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略
日本株式VCI(ドル建)	コーポレート・ガバナンスの見地から日本株式に能動的に投資する投資戦略

3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期
日本株式一般(合同口)	5.54%	60.69%	-14.57%	-28.93%	-34.48%
日本株式中小型	13.26%	44.34%	-11.86%	-28.95%	-25.64%
日本株式L/S(ドル建、Lev2)	2.36%	27.95%	-3.74%	-14.43%	5.95%
日本株式L/S(円建、Lev1)	2.96%	18.68%	-7.50%	-11.31%	-4.13%
日本株式集中投資	3.13%	48.94%	-18.71%	-10.14%	-25.67%

この資料は、スパークス・グループ株式会社の株主および関心を有する方への情報提供のみを目的として作成したものであり、当社の株式またはその他の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・グループ株式会社もその関連会社も、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述(これらは未監査のもので)の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれら依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。過去の実績値は将来のパフォーマンスを示唆または保証するものではありません。この資料には、スパークス・グループ株式会社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、スパークス・グループ株式会社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来におけるスパークス・グループ株式会社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あります。以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書をご参照ください。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・グループ株式会社に属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用、複製、配布、送信することを禁じます。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社(スパークス・グループ株式会社の100%子会社)は、グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS®)に準拠して本資料の関係部分を作成し提示しています。準拠主体である会社はスパークス・アセット・マネジメント株式会社、SPARX Overseas Ltd.、SPARX Investment & Research, USA, Inc. 及び SPARX International (Hong Kong) Limitedで構成されます。スパークス・アセット・マネジメント株式会社は、日本において投資運用業、投資助言・代理業、第二種金融商品取引業等を行う金融商品取引業者として登録されています。

スパークス・グループ株式会社

郵便番号141-0032

東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー16F

Tel: 03-5437-9700 (代)